

青山学院女子短期大学紀要第70輯刊行を祝う

学長 八耳 俊文

記念すべき第70輯を迎えることになりました。紀要の創刊号が刊行されたのは、本学創立二年後の1952年7月であり、その六十四年後の本年（2016年）発行の号が「70」であるのは、1955年度から1957年度と1959年度から1960年度に年に2回発行されたためです。

本学は教育理念で「現実在即した有用な学芸のみならず、全人的で世界的な視野に立つ高度な教養教育を授ける」を謳っています。高度な教養教育を授けるのに、教員の絶えざる研究は不可欠です。研究を続けることにより教員は一段でも高い位置に立つことができ、視野を広げることができるのです。

紀要は学会誌や専門誌に比べ、その多くがレフェリーによる厳しい査読を経ていないため、低い評価が与えられがちです。しかしそれは紀要論文が読まれないまま、大学や研究機関の図書館に死蔵されていた時代のことであり、今やインターネットで全文が公表されるようになり、多くの読者の目に触れるようになりました。現在の基準は「よい論文は読まれ、言及・引用される」です。それぞれの研究者が重要と判断したら参照されるようになりました。学会誌論文のような査読者の選別を経ることなく、読者の判断で選ぶ時代となったのです。多くの人が不適切と判断する論文を注釈なく評価した場合、引用した著者が評価されるのです。

研究者の関心が集中している自然科学系の研究に比べ、文系の研究は研究者の関心は多様であり、短期間のうちに研究成果が目に見えて影響力をもつことは多くありません。しかしインターネットに公開されている限り、読まれる機会はあることになったのです。

青山学院は成果物の公表に他校に比べ早い時期より取り組んできました。それが青山学院大学・女子短期大学 学術リポジトリ（AURORA-IR）です。現在、本紀要論文は過去の初期の時代の号を除けばほぼ全文をインターネット上で読むことができます。2004年より国立情報学研究所による学術情報検索データベースである CiNii（サイニー）が利用できるようになり、本紀要論文も同データベースからも閲覧できます。CiNiiは誰でも利用でき、本紀要論文は最近の論文だけでなく過去に遡って、より身近に、多くの読者の目に触れることになったのです。

本紀要では第24輯（1970年）に教員が1950年度から1970年10月までに発表した研究業績をまとめた「青山学院女子短期大学 研究成果総覧」を掲載し、第25輯（1971年）よりは毎年、「研究成果一覧」を載せるようになりました。これにより本学教員の研究内容を紀要論文からのみならず、教員全員の研究業績を世に示すことになりました。

このように振り返ると、本学の紀要は常に研究成果を公表する方針を、また本学は公表を通じ教員の研究について将来の読者を含む多くの人による審査を受けるとの方針をとってきたのです。厳しいですが誇りでもあります。ここに第70輯を世に送り出します。70冊の本紀要が過去の宝庫でなく、将来、地球のどこかで、いつか誰かが読み、自らの関心や研究を深めるのに貢献する、未来の宝庫であることを期待し、第70輯発行のお祝いいたします。